

## 試験研究（中間）評価整理表

試験研究機関名 内水面水産試験場

所 管 課（室） 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	豊かで魅力ある水産産業の振興	水産資源の持続的利用技術の開発	ワカサギ増殖技術の開発	県内での採卵自給体制を確立するため、採卵技術、放流技術を改良し、技術の向上を図る。 資源及び漁場環境をモニタリング、解析し、適正な資源管理手法について検討する。	親魚の効率的捕獲、効率的採卵、ふ化率向上により、県内自給率を向上させる。 加入量の把握、釣獲による資源状況、餌料環境の調査から資源管理手法を検討した。	18	22	C	よりニーズの高い採卵や放流に関する技術改良に目的を絞り、方針変更して取り組むべきである。	外来魚による食害の把握など、別角度からのアプローチも有効であろう。
2	豊かで魅力ある水産産業の振興	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	高付加価値魚作出保存技術の確立	ヤマメについて、4倍体魚と性転換雄の交配による全雌3倍体魚を量産する技術を開発する。	1 受精卵の圧力処理で4倍体魚を作出する。 2 4倍体魚を継代し、優良な親魚群を育成する。 3 4倍体魚と性転換雄の交配により全雌3倍体魚を作出し、その特性を評価する。	18	22	B	研究ニーズがあり、また将来の地域特産種となる可能性もあるため、継続して実施すべきである。	全雌3倍体魚の量産のための技術開発を目的に、はじめに4倍体魚の作出と継代に取り組み、4倍体の作出を達成している。本研究の高いニーズを踏まえ、引き続き4倍体の継代（優良な親魚群の育成）に取り組んでいくべきだと判断される。